琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　日米技術

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米技術委員会, 審議概要 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43733

[redacted]

本人国　47.1.28 5

外務省 1部

北米局長
参事
北米課長

総南連第257号
昭和41年2月3日

総理府特別地域連絡局長　殿

那覇日本政府南方連絡事務所長

第8回技術委員会の概要について

標記について，下記のとおり報告する。

記

1　会議日程

第1日　1月28日(金)午前9．00開会　議事

第2日　1月29日(土)午前10．00再会　議事

午前10．35閉会　新聞発表

2　出席者

日本政府代表　山本南連所長

随員(総連局)　降矢援助業務課長

(南連)　薄次長，広田第二課長，上東渉外係長

財政援助係長

米国民政府代表(議長)　ネビア副民政官

随員　フライマス渉外局長，ボディガ計画局予算部長，立川計画局予算課長

琉球政府代表　小波蔵副主席

随員　当銘総務局長，久手堅企画局長，里企画局予算部長，比嘉同予算部長，新垣同会計課長

通訳　原田米国民政府渉外局通訳官

新聞関係　リオズノフ同広報局報道部長

3　議題

(1)　昭和39会計年度財政援助事業の執行状況及び今后の計画

(2)　昭和40会計年度財政援助事業の執行状況及び今后の計画

(3)　その他

(イ)　昭和40会計年度における援助金に関する覚書の実施のための細目

(ロ)　昭和40会計年度技術援助計画の追加

(ハ)　財政援助事業の執行促進策及び事務手続の簡素化

4　会議の概要

1)　第一議題について

小波蔵委員より昭和39年度財政援助事業の執行状況について，次のとおり説明があつた。

総理府

イ) 承認済資金計画額4，025，788ドル03セント（1，449，283，690円）に対し，昭和40年12月末現在の支出負担行為済額は4，008，451ドル24セント（1，443，042，446円）で，その執行率は99.56％である。入札残の17，336ドルについては，これを活用すべく既に一部について事業計画の変更承認を受けて執行中であり，残りの部分についても現在計画中である。

ロ) 総事業件数150件のうち昭和40年12月末までに事業を完了したものは，117件で，未完成の事業は33件である。この未完成事業の現況については，「現況説明書」（別添5）のとおりである。

ハ) 上記未完成事業のうち工期を延長したものは12件であり，これは，台風の影響，土地及び物件補償の不調，設計変更等の事情によるものである。これらの事業については，今后工程管理を充分に行い，本年3月末までには全事業を完成させる。

上記に引続き日本政府側より，次のような要望及び質疑が行なわれた。

イ 資金請求のための完成報告書は，遅くとも本年4月15日までには全部当方に到着せしめられたい。

ロ) 「現況説明書」によれば，事業番号8－2美田良耕地護岸（8，750ドル）は，小規模の事業であるにも拘らず，中途で解約されているが理由如何。

これに対し，琉政側より(イ)については，異存ないこと，(ロ)については，異常な事例であり，業者（石垣島）の資金繰りが悪化したため工事が停滞した。昨年12月13日現地からの報告を受けて契約を解除したが，現在他業者が請負施工中であるとの説明があつた。

2 第二議題について

小渡蔵委員より，昭和40年度財政援助事業の執行状況について，次のとおり説明があつた。

イ) 覚書に定められた援助金総額6，538，216ドル19セント（2，353，757，828円）と殆んど同額の資金計画を作成して日本政府に提出した。事業件数では，総事業44件中事業計画提出済のものは41件で，本年1月28日現在すべて日本政府の承認を得た。

ロ) 昭和40年12月末現在における支出負担行為済額は，4，513，012ドル20セント（1，624，684，392円）でその執行率は69.02％（本年1月27日現在で78.2％）である。これを昭和39年度援助金の前年同期の支出負担行為

率２３．６８％と比較すると，約３倍となつており，本年３月末までには全部支出負担行為を完了する見込みである。

引続き，質疑応答が行なわれた。当方の質疑の要旨は次のとおりである。

イ）援助事業の完了見込みはどうか。

ロ）「執行状況調書」（別添６）によれば，非明許のもののうち，(2)農業普及の移動家庭実施指導班，(23)－1癩療養所備品，(27)－2保育所，(35)幼稚園備品，(38)学校図書館図書，(49)無医地区医療備品等が昨年１２月末現在で支出負担行為未済となつているが，本年３月末までに完了させ得るか。

（注：ここで非明許とは，翌年度にわたる債務負担について大蔵省の承認を得ていないものを云う。以下においても同じ）

ハ）総事業４４件中，３件が事業計画未提出となつている理由如何。

これに対し，琉政側より次のとおり説明があつた。

イ）昨年１２月末現在の支出負担行為率は６９％工事進捗率は３３．１５％であり，本年３月末では，支出負担行為率は９７．６３％，工事進捗率は，６０．２７％となる見込みである。

総事業４４件中，明許となつているのは２２件で残りの２２件は本年３月末までに全部完成させなければならぬが，１件の疑問を残し，他はすべて完成可能である。

疑問とされるのは，保育所で場所の変更を余儀なくされたため，着工が遅延すれば３月末までの完成が懸念される。場合によつては，繰越すこととなるかも知れぬので，予め了解を得ておきたい。（なお，議長より個々の事業についての昨年１２月末における事業進捗の実績及び本年３月末における事業進捗の見込みを后日琉政より資料として提出して欲しい旨要望があつた。）

ロ）非明許のもののうち，支出負担行為未済のものについては主として備品であるから，１月中に契約を完了し，３月末までには納入させうる見込みである。

ハ）事業計画未提出の３件は，(1)農業研究の１部と，(9)土地改良Ａ，Ｂの２件である。

農業研究については，当初２６，０００ドルで農業試験場の圃場の河川を改修する計画であつたが，事業単価の見積が低く，設計変更も困難であつたので，事業計画を変更して備品を購入することとしたもので，部内調整に日数を要した。

土地改良については，金武村の土地改良事業の当初資金計画額が３７，０００ドル（２１，６８０ドルの誤）であつたのに対し，経費節減により２１，０００ドル（１０，４４８ドルの誤）に設計変更したので，残額１５，０００ドル（１１，２３２ドルの誤）

を他の事業区（豊見城土地改良事業）に変更した。事業計画書は近日中に提出の見込みである。

上記(イ)の本年３月末進捗見込に関し，質疑が続行した。日本側の質疑は次のとおりである。

琉政側の説明によると，本年３月末における事業の進捗見込みは６０．２７％であるが，事業計画書に示された事業の完成予定期日により完成予定事業量を計算すると６８％となりその間の差が大きい。又上記の率６８％により本年３月末までに琉政へ支出すべき資金額を１６億円と算出し，大蔵省と協議済である。琉政側の進捗見込率から算出すると１４億円となり２億円の差があるので，その差を縮めるよう執行の促進を計つて欲しい。

これに対し，琉政側より次のとおり説明があつた。

昨年１０月末の試算によると，本年３月末の完成見込金額は１６億円となるが，各事業別に工程表により検討した結果14億円と見積つた。又事業計画の承認に要する日数も考慮した。しかし，日本政府の御要望に極力近づくよう努力したい。

引続きネビア議長より，援助事業の執行促進に関連して次のような発言があつた。これは，本年１月１日付朝日新聞朝刊第11面に掲載された福田大蔵大臣の談話に関するものであるが日本政府の沖縄援助事業の執行について，米側がかなり積極的な関心を示したものとして注目される。

イ）日本政府は，昭和４１年度予算で実施する事業は，昭和４０年度内に業者と契約を締結できるように改めた。従来予算成立后実施するまで３，４ケ月の準備を要したので，大蔵大臣としては，予算実施促進要領を作成して，各大臣の協力を求めたいとしている。

沖縄援助金を効果的に執行するためにこのような方法を採用してはどうか。

ロ）現在建設省では，投機的な買占めによる土地の値上りを防止するため，公共的事業のために土地を購入する場合は，計画が決定した時の価格で購入することができるようにする計画案をもつているといわれるが，これについての見解を伺いたい。

3）第三議題について

(1) 実施細目について

概算払及び部分払の実施手続についての技術委員会了解事項が実施細目に含まれていないが，これらの了解事項は，引続き効力を有するとの了解のもとに実施細目案は承認された。

(2) 技術援助計画の追加について

１月２７日米国民政府より当方に送付のあつた追加計画案

（第１部専門家派遣６項目７名，第２部研修生受入４５項目４８名）について琉政より説明があり，当方は早急に検討して回答する旨を約した。

(3) 財政援助事業の執行促進策及び事務手続の簡素化について

当方より，援助事業の一層の執行促進を計るため，現在日本政府部内で事務手続の面から具体案を検討中であるので，近く具体案が得られた際に議長あてにその内容を通告し検討を要請したい旨発言，又小委員会の設置についてもその際に改めて協議したい旨を要望した。

これに対し，米琉各代表とも，この日本側提案に応ずる態度を明確にし，又，議長は小委員会設置の方針を明らかにした。

別添資料

1 協議事項

2 昭和４０年度援助金に関する覚書の実施のための細目（英，和両文）

3 上記説明書

4 昭和３９年度日本政府援助事業執行状況調書

5 昭和３９年度日本政府援助事業の現況説明書（英，和両文）

6 昭和４０年度日本政府援助事業執行状況調書

7 共同声明

（本信写送付先　　外務省北米局長）

総　理　府

第八回技術委

TECHNICAL COMMITTEE MEETING
28 January 1966 - 29 January 1966

Members Present:

Colonel Jack P. Napier, Chairman and Representative of the High Commissioner of the Ryukyu Islands to the Technical Committee
Mr. Yoshio Yamamoto, Representative of the Government of Japan to the Technical Committee
Mr. Seiko Kohagura, Representative of the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands to the Technical Committee

Accompanying Advisers and Observers:

a. For the Representative of the High Commissioner:

(1) Mr. E. O. Freimuth, Liaison Department
(2) Lt. Col. Carl J. Bordiga, Comptroller Department
(3) Mr. Clarence Tatekawa, Comptroller Department

b. For the Representative of the Government of Japan:

(1) Mr. Tsuyoshi Susuki, Deputy Chief, Japanese Government Nampo Liaison Office, Naha
(2) Mr. Tokio Furuya, Chief, Assistance Section, Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office
(3) Mr. Tokio Hirota, Chief, Second Section, Japanese Government Nampo Liaison Office, Naha
(4) Mr. Takeshi Kuma, Economic Assistance Officer, Japanese Government Liaison Office, Naha
(5) Mr. Teruo Kamihigashi, Liaison Officer, Japanese Government Nampo Liaison Office, Naha

c. For the Representative of the Chief Executive:

(1) Mr. Yuken Tome, Director, General Affairs Department, Government of the Ryukyu Islands
(2) Mr. Kenji Kudeken, Director, Planning Department, Government of the Ryukyu Islands
(3) Mr. Haruo Sato, Chief, Budget Division, Planning Department, Government of the Ryukyu Islands
(4) Mr. Shinshu Higa, Chief, Budget Section, Budget Division, Planning Department, Government of the Ryukyu Islands
(5) Mr. Takehisa Arakaki, Chief, Accounting Section, Budget Division, Planning Department, Government of the Ryukyu Islands

Interpreter: Mr. Ralph K. Harada, Liaison Department, USCAR

Press Relations: Mr. Alexander Liosnoff, Public Affairs Department, USCAR

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

SUMMARY NOTES
Technical Committee Meeting
28 January 1966 - 29 January 1966

28 January 1966
0900 Hours

COL NAPIER: Good morning, gentlemen. I now call this eighth meeting of the Technical Committee to order. This is our first meeting for calendar year 1966 and I am sure we all look forward to the successful outcome of today's meeting which should accomplish much for the further development of an effective aid program for the Ryukyu Islands.

I would like to welcome Mr. Furuya who is here from the Special Areas Liaison Bureau in Tokyo and who is joining Mr. Yamamoto as an adviser at today's meeting.

All of the items on the agenda of this eighth meeting have been specifically requested to be included for discussion and consideration by Mr. Yamamoto, the representative of the Japanese Government. I feel certain that the free and open discussion of the various topics which have been scheduled will enable each of us to acquire a better understanding of the progress being made and the future of each project.

The agenda has been provided to each member present and as soon as each member has had the opportunity to make any opening remarks which he may wish to make, if it is agreeable, we then can proceed with agenda Item 1.

Mr. Yamamoto, do you wish to make any remarks at this time?

MR. YAMAMOTO: Thank you very much. I would like to make a statement.

The execution of economic aid and technical assistance projects of the Government of Japan has shown steady progress each year. I would like to express my appreciation to the concerned authorities of the United States Civil Administration and the Government of the Ryukyu Islands for their constant cooperation and effort which made these improvements possible.

I would also like to express my heartfelt appreciation to the Chairman of the Technical Committee for your favorable consideration in calling today's meeting when I requested it for discussion of three agenda items.

With regard to Agenda Items No. 1 and 2, I would like your views and comment. There is little more than two months left in the Japanese fiscal year of 1965 and the JFY 1964 aid projects, as presented in Agenda Item

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

No. 1, must be fully completed by 31 March of this year. As for JFY 1965 aid projects which are presented in Agenda Item No. 2, they must also be completed by the end of March 1966, like those projects in Agenda Item No. 1, except for those which may be allowed to be carried over beyond April of this year owing to unavoidable circumstances. It is also proper I believe that there is a necessity to exert every effort to expedite the execution of these carryover projects. I would like to hear your views and exchange discussion on the progress of the execution of these projects, the problem areas, and the completion schedule of these projects.

With respect to Agenda Item No. 3, first, we will present before this Committee a proposal of the Government of Japan on the Details of Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for JFY 1965 for which your consideration and views will be appreciated. Secondly, we have a proposal to make regarding additional technical assistance projects for JFY 1965 Aid Funds Program. That is, it is assumed, as you have been notified in advance and in writing, that a certain amount of surplus in the aid funds will be possible. Therefore, we would like to request that a proposal for additional projects be presented by the Civil Administration and the Government of the Ryukyu Islands. Finally, the Japanese Government is now making a review on ways and means of expediting the execution of projects for JFY 1966 Aid Projects including the simplification of administrative procedures. We would like to present at this time our opinion of how we wish this matter should be handled.

In closing, I sincerely request your careful consideration of our views so that the Technical Committee will be able to achieve effective results through your cooperation and support. Thank you.

COL NAPIER: Mr. Yamamoto, I would like to thank you for your very informative and valuable statement.

Mr. Kohagura, do you wish to make a statement at this time?

MR. KOHAGURA: It is indeed an honor to be here today on this occasion of the eighth meeting of the Japan-United States-Ryukyu Islands Technical Committee and have this opportunity to discuss the agenda items with the representatives of the Government of Japan and the High Commissioner to this Technical Committee. The Technical Committee has held effective discussions at each of its meetings and many important decisions were reached regarding the execution of aid funds. These effective discussions and important decisions have, in turn, made it possible for the Government of the Ryukyu Islands to carry out its administrative responsibility quite effectively and successfully. We look forward to further improve ourselves through the discussions by this committee.

In closing, I would like to thank the representatives of the Government of Japan and the High Commissioner for their successful efforts which made possible of a large-scale increase in the JFY 1966 GOJ Aid Funds and I am

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

determined to exert my efforts to effectively carry out the execution of the aid projects for JFY 1966. Thank you.

COL NAPIER: Thank you very much Mr. Kohagura for your useful and complimentary statement.

I would now like to open with Agenda Item No. 1, Status of Execution of the JFY 1964 Aid Projects and the Completion Schedule of the Projects. I believe we all recognize that the execution rate of the JFY 1964 aid program was not as rapid as desired; however, I am pleased by the more effective manner in which the JFY 1964 program has been carried out when compared with the JFY 1963 aid program. This is a clear indication that GRI is becoming better organized to handle larger aid programs and that the technical staff is working more effectively in meeting the requirements of the aid program.

Mr. Yamamoto, this is a topic proposed by the Japanese Government. Would you like to state your position at this time?

MR. YAMAMOTO: I have just heard the Chairman express the view that the Government of the Ryukyu Islands has carried out the aid projects more effectively in comparison with the previous fiscal year. I am very happy of the progress made. We also have received a study of the progress of the program for which I am most appreciative.

Regarding Agenda Item No. 1, we would like to request the views of the representative of the High Commissioner and of the Government of the Ryukyu Islands of what is being done and what are the future plans for the program.

COL NAPIER: Mr. Kohagura, would you like to respond to this first?

MR. KOHAGURA: With regard to the progress of the execution of JFY 1964 Japanese aid funds, I have distributed to all members the Report on the Status of Execution of the GOJ Aid Funds for JFY 1964 which is as of 31 December 1965 (Incl 1). May I now present to you a brief explanation of the progress of execution of GOJ JFY 1964 aid projects? As of the end of December 1965, out of the total aid program approved in the amount of $4,025,788.03, I can report that 99.56% of the program has been executed to date in an amount of $4,008,451.24 which has been obligated. On the basis of each approved program obligated, there still remains an amount of $17,336 which is unused due to delay in contracting and other matters. In order to fully use this remaining portion, plans are now underway to obtain approval of a change in the aid program and execute the remaining portion of the program. With regard to the details in the rate of progress, 117 projects out of a total of 150 were completed by the end of December 1965, leaving a balance of 33 projects incomplete. To explain the reasoning behind each of the incomplete projects, I have distributed a document titled "Explanation of Status of Progress JFY 1964 GOJ Aid Projects." (Incl 2). Included will be shown that 12 projects have required an extension of time and were behind schedule. This is due to unavoidable circumstances such as the effects from typhoons, problems in compensation for land and

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

articles, changes in designing work and other matters which were required. It is our intent to give due consideration to this and to give closer supervision to complete all of them by the end of March 1966 which will be the final date of completion. Actually it is our intent to complete them all by the end of February 1966 but there will be some, about three or four, which will continue into the next month and to the end of March 1966. This is a brief report of the status of progress of the JFY 1964 aid projects and I would like to express my deep appreciation to the concerned authorities of the Government of Japan and the Civil Administration for the understanding which has been given in the changes and other matters during the execution of these projects.

COL NAPIER: Thank you for the concise and clear explanation and the report that the obligation rate is so much above the 99% mark. Mr. Yamamoto, do you have a comment at this time?

MR. YAMAMOTO: Yes. I join the Chairman and also thank you for the clear report. I would like to have Mr. Furuya make a comment.

MR. FURUYA: I have also heard the fine explanation that the JFY 1964 program will be completed by the end of March 1966. I would like to express my hope that this will be done. In this connection, our thoughts are additionally centered on the actual expenditure of the aid funds and I would like to request that the completion reports for these aid projects will be in our hands by 15 April. Since we must have completed all the payments by the end of April, that only gives us two weeks to review the completion reports. I must urge that you have the completion forms in by 15 April.

COL NAPIER: Mr. Kohagura, do you have any further comment?

MR. KOHAGURA: We will have all items and appropriate documents presented to you by the time requested.

COL NAPIER: Mr. Yamamoto, do you have anything else on this agenda item?

MR. YAMAMOTO: Yes. I have one other item which my staff will present.

MR. SUSUKI: I would like to refer to page 2 of the "Explanation of Status of Progress JFY 1964 Aid Projects" which was presented by the Government of the Ryukyu Islands. Item Number 8-2 refers to the Mitara Farm Protection Wall at Sonai in Taketomi-cho. I realize the amount is relatively small, only $8,750. However, in the explanatory column it is stated that the first contract was canceled because the contractor could not finish the work. Does this mean the contractor was incapable of doing the job?

COL NAPIER: Mr. Kohagura, would you explain this please?

MR. KOHAGURA: I will have Mr. Kudeken explain it.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

MR. KUDEKEN: As has been pointed out, this is a project in which the aid fund is small. However, nonetheless, we deeply regret that a situation developed such as has been reported. The contractor is from Ishigaki and the project is located on the island of Iriomote in Taketomi-cho. If the original contractor had been retained, by the end of March he would have completed only 78% to 79% of the project. Also, we found out he was in a weak financial situation. When we learned of this on 13 December 1965, we immediately canceled the existing contract and entered into a new contract with another contractor and he will complete the project by the end of March. This is a rare case and it certainly does not happen often. However, we have learned something from this and will be more careful in the future on the contractors which are used.

COL NAPIER: Were these funds given directly to Iriomote?

MR. KOHAGURA: They went through the government's branch office in Ishigaki.

COL NAPIER: Mr. Yamamoto, any further questions?

MR. YAMAMOTO: I wish to thank you for the full and straight forward explanation of your investigation into this situation.

COL NAPIER: Anything further, Mr. Kohagura?

MR. KOHAGURA: No.

COL NAPIER: Now let us turn our attention to Agenda Item No. 2, Status of Execution of the JFY 1965 Aid Projects and the Completion Schedule of the Projects. I understand that the execution of the JFY 1965 program is off to a good start with only part of two programs (Agricultural Research and Agricultural Land Development) not yet forwarded to Japan for initial approval in Form No. 1. The rapid processing of the program approval form (Form No. 1) appears now to assure that the Government of the Ryukyu Islands will be able to attain a higher completion rate by 31 March 1966 than the JFY 1964 program attained in March 1965.

Mr. Yamamoto, this is an item proposed by your government and I invite your comments.

MR. YAMAMOTO: Regarding this matter, we have also received a report similar to that we received in connection with Agenda Item No. 1. Now, if we can have an explanation similar to that received in connection with Agenda Item No. 1, I would appreciate that.

COL NAPIER: Mr. Kohagura, are you prepared to provide an explanation at this time?

MR. KOHAGURA: Yes, I would like to briefly explain the progress in the execution of the JFY 1965 aid projects. A copy of the document mentioned by Mr. Yamamoto - Report on Status of Execution of GOJ's Aid Funds for JFY 1965 as of 31 March

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

1965 (Incl 3) - has been provided to you. In connection with this program, we must consider the amount approved, and the added responsibility entailed as well as the overall progress of the program. Since the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1965 was concluded (30 July 1965) and until the present, we have completed development of the programs for the total amount of the aid funds amounting to $6,538,216.19 which was approved. We have requested the Government of Japan for this same amount, through the United States Civil Administration, however, the submission of our requests have been delayed somewhat and therefore, we are slightly behind our desired schedule. Out of a total of 44 projects, 41 have been submitted and the Government of Japan has approved 39 of these. Next, as to our carrying out this program, $4,513,012.20 has been obligated out of the total amount of $6,538,216.19 of this current fiscal year's aid as of the end of December 1965, which is a 69.02% obligation rate, and it is hoped to obligate 78.2% by 27 January and to have the entire aid program completely obligated by the end of March. When compared with the previous fiscal year's aid program which had an obligation rate of 23.68%, we are able to show an increase of some three times. This is attributed to the close cooperation of both the United States and Japanese officials, and I would like to express my deep appreciation to them at this time. Also, I would like to state that we will continue to provide our full supervision of the program and work to move ahead rapidly with the program in the future. This is a summary of the status of this fiscal year's program and while not completely satisfactory, it is an improvement and, again, I would like to request the cooperation of the concerned officials of both the United States and Japan in the future.

COL NAPIER: Mr. Kohagura, I feel that you should be proud and that your government should be very proud to be able to make such a report. Mr. Yamamoto, do you have any comments?

MR. YAMAMOTO: We have heard the fine explanation by Mr. Kohagura, particularly his report that the progress has tripled over the past year's program. Therefore, I go along with the Chairman's congratulations and express my hope that you will be able to continue at this rate.

I would now like to ask Mr. Furuya to ask a question.

MR. FURUYA: In this JFY 1965 aid program, your report indicated that quite a number of items will be completed by the end of March 1966. Can we accept your report as factual and as given?

COL NAPIER: Mr. Kohagura, will you comment please?

MR. KOHAGURA: Mr. Kudeken will explain this.

MR. KUDEKEN: As reported to you, it is our intent to carry out the execution as scheduled and as announced. In actuality, as of December 1965, we are able to record that 69% of the obligations were completed and 33.15% of aid projects were fully completed. If we continue at this rate, by the end of March of

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

this year, 97.63% will be obligated and 60.27% of the aid projects completed. This, however, is our estimate and for which we cannot establish a guarantee but I do believe that we will be very close. In the next three months of January, February and March, our department will exert all efforts and I believe that we can carry out the aid projects at a rate equal to the 33% reported as completed. Details of the schedule are being prepared and if you desire it, we can furnish additional details to you.

COL NAPIER: Mr. Kohagura, with Mr. Yamamoto's concurrence, I would like to have this additional detail made a matter of record.

MR. KOHAGURA: Mr. Kudeken, would you like to add some more to his explanation?

MR. KUDEKEN: The first explanation was in general terms. I would like to report there is one case that needs further explanation. The total consists of 44 projects, 22 are Meikyo 1/ and the remainder non-Meikyo. The latter will have to be completed by the end of March 1966. Of this number, there is one, the construction of a nursery, which requires a change in location and, therefore, it might not be carried out in time to meet the end of March. So, because of this we might have to request a transfer of this project from a non-Meikyo to a Meikyo category.

COL NAPIER: I had thought that all the JFY 1965 projects were in the Meikyo category. I would like to hear your views on this but first I suggest we recess for some coffee which is ready.

(Recess - 1030-1050 hours)

COL NAPIER: At the time we recessed, Mr. Kohagura was prepared to respond to a question raised by the Chairman.

MR. KOHAGURA: Yes. I will have Mr. Kudeken explain this.

MR. KUDEKEN: I would like to explain on behalf of our government. I realize that there is some difference in my explanation from what the situation actually is. Actually, all the projects for JFY 1965 are Meikyo. However, in our submission of the individual programs for implementation, we had designated those projects which we believed could be completed by the end of March and had designated others which

1/ A carry-over system in which the expenditure of funds for projects approved by the Japanese Diet can be automatically extended for one year after the year for which appropriated.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

we knew in advance could not be completed. This does not mean that the Diet must approve an extension of the funds, but instead the Prime Minister's office can work it out with the Finance Ministry to allow an extension.

COL NAPIER: I understand, Mr. Kohagura. This then is an internal matter of the Government of the Ryukyu Islands.

MR. KOHAGURA: Yes. It is a basic policy guide to ourselves under which we are working.

COL NAPIER: Mr. Yamamoto, do you have anything else?

MR. YAMAMOTO: Yes. We have one or two additional items which Mr. Furuya will discuss.

MR. FURUYA: The first matter is when we look at the "Report on Status of Execution of GOJ's Aid Fund for JFY 65" (Incl 3) there are a number of non-Meikyo projects which appear to me as if they will not be completed by the end of the fiscal year. These are Nos. 2, 23, 27, 35, 38 and 49.

COL NAPIER: When we mention "non-Meikyo" here, we mean the determination on the part of the Government of the Ryukyu Islands to handle certain projects as non-Meikyo. Is that correct?

MR. KUDEKEN: Yes it is. I would say that we will be able to obligate those which have not been completely obligated yet under the planned schedule. These projects are all for the purchase of equipment. Within our government we are working to complete contracts for this purchase by the end of this month and although there are only a few days left we plan to have all the goods delivered by the end of the scheduled period.

COL NAPIER: The representative from the Government of the Ryukyu Islands appears prepared with the type of facts we like to hear. Mr. Yamamoto, any further comments?

MR. YAMAMOTO: Yes, that explanation is quite clear and satisfactory and we would like to proceed with another.

COL NAPIER: Please do.

MR. FURUYA: The Government of the Ryukyu Islands mentioned that out of a total of 44 projects, 41 have been submitted -- that means three remaining. Will you please explain this?

MR. KUDEKEN: The three projects which have not been submitted are actually two in substance. One in Agricultural Research, the other Land Development. Under the latter, there are two items. The first is for a total of $26,000. There were some errors discovered in our unit costs when we designed the bridge and river bank

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

retaining walls at the experimental station. We felt that, therefore, we could better use the funds for the purchase of equipment rather than use it for bridges.

In the other, there is one area, the land improvement in Kin-son, which is a problem. In this case, we overestimated the cost and, therefore, made adjustments to use approximately $10,448 out of $21,680 budgeted in Kin-son. We also made arrangements to use the estimated $11,232 which remained for an additional land improvement project at Tomigusuku. These adjustments caused delays in planning but now that this adjustment has been achieved, we will submit the forms shortly and request your favorable consideration of the change.

Also, where Mr. Kohagura had mentioned earlier that 41 project requests had been sent and 39 approved by the Japanese Government, I would now like to say that as of 26 January, the other two requests were returned approved and now we have 41 approved and none are with the Government of Japan any longer.

COL NAPIER: Your explanation brings us more good news. Mr. Yamamoto, are there any further questions?

MR. YAMAMOTO: At this opportunity, we would like to ask another question.

MR. SUSUKI: With regard to the submission of the project plans for approval in JFY 65 aid projects from the Government of the Ryukyu Islands, the people in Japan will handle processing as expeditiously as possible so that approval can be obtained. However, it is noted that among these requests which are submitted through Mr. Yamamoto, our home office finds that a few days of delay are encountered after their receipt because it has been found that plans are being changed from the original program accepted without an adequate explanation. Therefore, when there are changes from what has been agreed to under the basic memorandum, the necessary documents with a full explanation must be attached so that this can be understood. While it is most desirable to stay within the program, it is understandable to make changes, but it is also necessary to have an adequate explanation of these changes presented.

COL NAPIER: It is essential that the individual programs will be carried out to the maximum extent for activities for which funds have been budgeted. However, I also recognize that conditions can change which in turn necessitate changes in programs. I believe that whatever changes have been proposed by the Government of the Ryukyu Islands were made because of changing circumstances and I believe that the Government of Japan understands this. Your comments are appreciated and I believe this will lead the Government of the Ryukyu Islands into a continued more responsible approach which it is continuously attaining.

Mr. Yamamoto, do you have further comments?

MR. YAMAMOTO: In this matter, I agree with the Chairman, we have one more.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

MR. FURUYA: Regarding the completion schedule for JFY 65, you explained earlier that some 60.27% will be completed by the end of March, but by using the references which had been provided us earlier we estimate it at 68%. Can the Government of the Ryukyu Islands bring its percentages up to the 68% completion level which we estimate from the papers received by exerting a little more effort on your part? The reason we are asking for a little more effort is when we earlier made our own estimate of 68%, based on previous information received, we asked the Finance Ministry for ¥1,600,000,000 to be made available by the end of March. However, if and when 60.27% is the completion rate, it means we only would have needed to request ¥1,400,000,000 from the Finance Ministry which is a difference of ¥200,000,000 or quite a bit of money.

COL NAPIER: Mr. Kohagura, would you comment?

MR. KUDEKEN: It is true that from the applications which had been submitted for funds and from the documents earlier submitted it would have established a need of ¥1,600,000,000. This was the level computed at the end of October 1965. However, since then, and after compiling aid projects in the respective categories and checking with the schedule of completion, including those for which obligations are to be made, the figure is only ¥1,400,000,000. We recognize that the Prime Minister's Office has asked for ¥1,600,000,000 and therefore the Government of the Ryukyu Islands will further seek to increase our pace of execution in order to arrive as close as possible to the completion estimate earlier given by us. I do not believe we can reach the full amount but we will certainly try.

COL NAPIER: If this is all Mr. Yamamoto, and Mr. Kohagura has nothing further, I have one more comment to make which I believe is appropriate under this item. I have been informally advised that the Government of Japan is planning special internal measures to enable a speedup in the execution of central government aid projects. The Asahi Shimbun of 1 January 1966 carried a news article which quoted Mr. Fukuda, the Finance Minister, as saying "A change has been made so that contracts can be concluded with enterprises even within fiscal year 1965 for projects to be carried out under the fiscal year 1966 budget. In the past, it took three or four months to prepare for implementation after the budget was passed. At the negotiations with the various cabinet members on the compilation of the budget to take place soon, I intend to draft an 'Outline for Expediting of the Implementation of the Budget' and ask for cooperation from the cabinet members so that they take the lead."

It appears that if we could apply this measure to the Japanese Government aid program for the Ryukyus, it would help promote the efficient execution of the program. I wonder if there is any information available on this plan and can we expect this to be applied to future Japanese Government aid programs for the Ryukyu Islands.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

In the same news article Mr. Fukuda also stated, "One plan which the Construction Ministry is now considering is to ensure that land for public use will be bought at the price which prevails when a program is announced, in order to prevent the rise of prices from speculative buying-up of land."

Since land purchase price in the Ryukyus affects significantly the cost of all aid projects in the Ryukyus, whatever measure the Government of Japan takes would certainly be of interest to the Government of the Ryukyu Islands. All of us would be appreciative therefore if the Government of Japan can furnish at its convenience, available information on this subject also since such procedures could benefit the aid program. I by no means expect a response now but am asking your kindness in pursuing this matter.

MR. YAMAMOTO: In answer to this understanding which you have received from the Asahi Shimbun, I can only respond at this time that as far as the members of the Technical Committee on the Japanese side are concerned, we have not heard of any proposed change being advanced for the aid program to the Ryukyu Islands.

This appears to be a change in the Japanese Government program internally within Japan. However, in recognition of the Chairman's interest, and since there is a continuing effort to expedite the various projects through many means such as expediting paper work, simplification of forms, etc., I shall look into the matter and possibly it can be considered as a separate agenda item at the next meeting.

COL NAPIER: I agree that this might be appropriate to consider under a separate agenda item in the next meeting. With the agreement of Mr. Yamamoto and Mr. Kohagura, I propose a recess until 1430 hours.

(Recess - 1150-1440 hours)

COL NAPIER: I would like to open this afternoon with Agenda Item No. 3, "Implementation Details of the JFY 1965 Aid Projects, etc." Mr. Yamamoto, this is an item you have proposed; would you introduce it please?

MR. YAMAMOTO: The first sub-item under this agenda item concerns Details for Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Island for JFY 1965. I have used the Details for JFY 1964 as a basis for its revision and copies have been provided (Incl 4). I will have Mr. Furuya explain the proposed changes.

MR. FURUYA: The areas we would like to have to be considered are the following:

1. The term "JFY 1964" as referenced to in the provisions of the Details of Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1964 has been replaced by the term "JFY 1965."

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

2. The term "the Office of the High Commissioner" as referred to in the provisions of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1964 was alternated and replaced by the term "the United States Civil Administration" in the provisions of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1965. Therefore, the same term as used in the latter Memorandum has been proposed for use in the provisions of the Details of Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1965.

3. Because the operating matters of the Department of the Administrative Services were transferred to the Department of the General Affairs in accordance with the reorganization of the Government of the Ryukyu Islands, the term "Director of the Administrative Services" as stated in the provisions of the Details of Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1964 has been replaced by the term "Director of the Department of the General Affairs."

4. A portion of the forms which had been revised in accordance with the understanding reached at earlier meetings of the Technical Committee has been specified in the provisions of the Details of Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1965.

5. In addition to the above, certain points as referred to in the provisions of the Details of Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1964 have been revised as follows:

a. The agencies which originate and receive documents as specified in paragraph 3. have been revised as the "Chairman of the Technical Committee and Representative of the Government of Japan to the Technical Committee" in order to meet the practical management system and the term "in connection with the Memorandum" in the said paragraph has been deleted since the expression lacks unity when viewed in reference to paragraph 1.

b. The term "purchase orders" as referenced to in paragraph 7. was deleted in order to meet the provisions of paragraph 3.a. of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Government of the Ryukyu Islands for JFY 1965.

c. The second sentence of paragraph 9. has been deleted. The purpose stated seems to be indistinct and impractical.

d. The term "with partial payments restricted to completed subprojects or groups thereof or to partially-completed subprojects where 90 per cent of the completed portion is in excess of 10 million yen" was added in paragraph 10. The purpose is to clarify the requests of aid funds which are to be applied by a completion report. This was agreed to respectively at the fourth and sixth meeting of the Technical Committee convened on February 11 and July 8, 1965.

e. A column indicating the "quarterly status" has been added to the Form No. 3.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

COL NAPIER: Does that complete your proposal of revisions?

MR. YAMAMOTO: Yes.

COL NAPIER: Although the proposed revision of the "Details of Implementation" does not specifically include the procedures for the Government of the Ryukyu Islands to request Gaisan Barai (roughly estimated advance payment) and Bubun Barai (partial payment), it is mutually understood that the Government of the Ryukyu Islands is allowed to request Gaisan Barai and Bubun Barai in accordance with the procedures agreed upon during the sixth Technical Committee meeting.

If this is accepted, the "Details of Implementation" are agreeable to the United States. Mr. Kohagura, do you agree?

MR. YAMAMOTO: In order to provide the detailed views of our government, I would like to have Mr. Furuya give a further explanation.

MR. FURUYA: The reason we did not specifically cover Bubun Barai and Gaisan Barai in the revision of these details is because we do have an understanding on these items which has been reached in the Technical Committee. The Government of Japan is now making a thorough study of the details and will be coming forward with a proposal for an overall revision of the details for consideration by the United States and the Government of the Ryukyu Islands. In the meantime, we agree that the present rules shall be continued as previously established by the Technical Committee.

COL NAPIER: As I stated, if the understanding is accepted, the details are agreeable to the United States.

MR. KOHAGURA: We agree.

MR. YAMAMOTO: As an item under Agenda Item No. 3, one element is the request for additional technical assistance projects for JFY 1965. I am very happy and grateful that the technical assistance program by the Government of Japan for JFY 1965 is effectively being implemented under the full cooperation of the Civil Administration and the Government of the Ryukyu Islands. According to our original plan of the aforementioned program, it was initially planned that 141 Japanese technical experts will be dispatched from Japan under the Part I category under an estimated expense of ¥30,415,000 while in Part II category, 107 Ryukyuan technicians will be trained in Japan under an estimated cost of ¥10,464,000. As of this date, plans for 110 Japanese experts from Japan are being implemented under the Part I program while 94 Ryukyuans from Okinawa are being planned under the Part II program and the rest will be fully implemented by the end of March 1965. However, due to some changes in the time schedule, funds amounting to ¥1,000,000 will be available in Part I program (Dispatch of Technical Experts to the Ryukyu Islands) while in Part II (Reception of Trainees in Japan), approximately ¥2,500,000 will become a surplus. The Government of Japan, therefore, is hoping that additional plans to expend this surplus fund by the end of March this year will be proposed

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

so that the aid funds for the technical assistance program will be completely expended.

COL NAPIER: The Civil Administration received a proposed supplementary program consisting of a total of 50 program elements from the Government of the Ryukyu Islands. Six of these are under Part I - Dispatch of Japanese Technicians to the Ryukyu Islands, and 44 are under Part II - Reception of Ryukyuan Technicians in Japan. These were accepted by the Chairman and transmitted to the Government of Japan representative on 27 January with a request to determine if the projects proposed can be implemented.

I believe Mr. Kohagura has the details on this matter, and I therefore, will turn this discussion of details over to Mr. Kohagura.

MR. KUDEKEN: Regarding the supplementary program, we submitted this through appropriate channels. I imagine it has not reached the Prime Minister's Office at the moment. We will provide copies of it later in the meeting if desired. To give a description of the program, we propose 6 projects for 7 persons under Part I. They are in areas concerned with the Housing Corporation Law, city planning, operation of the retirement annuity system, manufacture of black sugar, operation of a medical library, and education finances.

In Part II there are 44 program elements, but in the police category there is one dealing with two major elements making it a grand total of 45 with 48 persons. Since there is limited time before the end of the fiscal year, I hope you can go into an early and rapid discussion with your respective ministries in order to assure completion of the program.

MR. YAMAMOTO: We have received from the Chairman, the supplemental listing as of 27 January. I I would like to express my appreciation for the detailed explanation from the Government of the Ryukyu Islands. We will see what can be done as rapidly as possible with the respective agencies concerned with the training programs. On sending individuals from Japan, we will of course have to acquire the agreement from the persons who are selected, and for those going to Japan we will have to receive the approval of those agencies and localities which are to receive them. With this understanding, we will do our best to meet your requests.

COL NAPIER: Mr. Yamamoto, do you have anything else on this particular element?

MR. YAMAMOTO: No.

COL NAPIER: Mr. Kohagura?

MR. KOHAGURA: No.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

COL NAPIER: Then I understand, Mr. Yamamoto, there was one additional element under the term "etc." which you wished to advance. Do you wish to take this up now?

MR. YAMAMOTO: The last sub-item under this Agenda Item is the matter of expediting the program and the simplification of procedures. As stated by the Chairman, there has been considerable improvement. Further, the Chairman has referred to a press article by the Finance Minister in Japan concerning the attempt at acceleration of the program in Japan.

In the Technical Committee there have been many discussions concerning the acceleration of the program. These have included such elements as Gaisan Barai and Bubun Barai. The Government of Japan, considering the difference in the fiscal year between the Government of the Ryukyu Islands and ourselves, notes a considerable number of aid projects which are being carried over into the next fiscal year which could be completed within the fiscal year for which the budget was made. Therefore, there is a need to work out more expeditious arrangements.

GOJ is now working out various arrangements for consideration and study and when the study is complete, I would like to inform the Chairman of these. Further, there are many other detailed areas to be worked out, and therefore, I would like to propose having a working group established to study these various matters.

COL NAPIER: A specific proposal such as this which may well result in reducing the administrative workload for both the Government of the Ryukyu Islands and the Civil Administration is always most acceptable. I favor forming such a working group to study measures to reduce the administrative workload and our willingness to provide a representative to the working group which has been proposed by the Government of Japan. I foresee that such a working group will apply itself very usefully to details in technical and administrative matters involving document simplification subject to the scrutiny of this committee and that it will work within the framework of existing policy.

I suppose Mr. Yamamoto will send some form of further communication on this and if Mr. Kohagura agrees, I will be happy to name someone to the working group.

MR. KOHAGURA: This is agreeable.

COL NAPIER: Mr. Yamamoto, anything else under the term "etc.?"

MR. YAMAMOTO: No.

COL NAPIER: Mr. Kohagura, do you have anything else?

MR. KOHAGURA: No.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

COL NAPIER: We will then have a joint press release and a working group can develop this and we can adjourn until 1000 hours tomorrow.

(Adjourned 1535 hours)

Reconvened 29 January 1966

1015 hours

COL NAPIER: Can we now reconvene? Mr. Yamamoto, do you wish to make a closing statement at this time?

MR. YAMAMOTO: Yes, Mr. Chairman. I am very happy that the discussions of the 8th meeting of the Japan-United States-Ryukyu Islands Technical Committee has come to a successful close today.

Through discussions held at this Technical Committee, we firmly believe that a brighter prospect has been reached regarding the status of execution of the JFY 1964 aid projects and the JFY 1965 aid projects and the completion schedules for these projects. The end of JFY 1965 is near and we sincerely hope that the remaining period will be fully utilized and that further efforts will be made to carry out and complete the aid projects.

We have reached a mutual understanding on the Details for the Implementation of the Memorandum Concerning Aid Funds for JFY 1965 between Japan-United States-Ryukyu Islands. Moreover with regard to additional technical assistance programs, a detailed proposal of the additional projects proposed to be carried out has been advanced with the cooperation of the United States and the Government of the Ryukyu Islands and we would like to exert our efforts so that your proposal will be accepted.

As for expediting the execution of the aid fund projects and simplifying administrative and technical matters, I would like to express my appreciation for the favorable understanding received from the Chairman and Mr. Kohagura, enabling us to discuss it when our proposal becomes ready for inclusion in the agenda of the next meeting of the Technical Committee.

COL NAPIER: Thank you. Mr. Kohagura, do you desire to make a closing statement?

MR. KOHAGURA: As the representative of the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands to the Technical Committee, I am very happy that the 8th meeting of the Japan-United States-Ryukyu Islands Technical Committee has come to a close amicably and effectively. I would like to express my appreciation for the many areas of assistance provided by the Government of Japan and the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands on the execution of aid funds and we

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

look forward toward your continued cooperation.

It is the intention of the Government of the Ryukyu Islands to be fully mindful of the execution of the budget and to endeavor continuously to effectively utilize the aid funds.

COL NAPIER: Thank you, gentlemen. In my closing statement, I wish to express my appreciation to the representative of the Government of the Ryukyu Islands to the Technical Committee for his fine presentations in response to the many questions which were raised with regard to the progress of both the JFY 1964 and JFY 1965 aid programs. I am most grateful for the reports received and the assurances which were provided this Technical Committee that the individual projects in the programs are progressing at a pace which will meet the fundamental timing requirements of the Japanese Government and that the greatest good will, therefore, be achieved for the people of the Ryukyu Islands.

The cooperation which was rendered by the representative of the Government of Japan at this meeting through inquiry into areas which he believed needed to be developed and which are important to his government is certainly highly valued. Presently, we are all looking ahead to the accomplishments necessary in the closing days for this fiscal year which ends on 31 March 1966. In view of the enlightening discussions we have had, I feel certain that we all leave this eighth Technical Committee meeting with a better feel for what yet remains to be done, and greater appreciation for the overall progress which has been made, and which has been realistically projected for us by the Government of the Ryukyu Islands.

Thank you again, gentlemen, for your splendid cooperation and for the support which I have received from each of the members and from the respective staffs.

Now, gentlemen, may I ask if we have arrived at a satisfactory joint statement which meets the desires of all concerned.

MR. YAMAMOTO: I believe so. I suggest, however, that it be read so that we can all agree. (Incl 5)

COL NAPIER: Then if no member has anything further, I declare this eighth meeting of the Technical Committee closed at 1035 hours today; the Japan-United States-Ryukyu Islands Technical Committee stands adjourned to reconvene at the call of the Chairman.

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

5 Incl

1. Rept on the Status of Execution of the GOJ Aid Funds for JFY64 (as of 31 Dec 65) (Limited distribution)
2. Explanation of Status of Progress JFY64 GOJ Aid Projects (Limited distribution)
3. Rept on Status of Execution of GOJ's Aid Funds for JFY65 as of 31 Mar 65 (Limited distribution)
4. Revision of the Details for JFY65
5. Joint Statement

NOT TO BE USED WITHOUT TECHNICAL COMMITTEE APPROVAL OTHER THAN FOR OFFICIAL PURPOSES

DETAILS FOR IMPLEMENTATION OF MEMORANDUM CONCERNING AID FUNDS FOR THE RYUKYU ISLANDS FOR JFY ~~1964~~ 1965

As a result of agreement in accordance with the provisions of the Supplement (Details of Implementation of Memorandum) of the Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY ~~1964~~ 1965 (hereinafter referred to as the Memorandum), details necessary for implementation of the Memorandum shall be as follows.

(Languages used in documents)

1. Documents necessary for implementation of the Memorandum (hereinafter referred to as documents) will be in both the Japanese and English languages.

(Necessary number of documents)

2. Three documents will be prepared for the Prime Minister's Office and two ~~copy~~ for the ~~Office of the High Commissioner~~ United States Civil Administration of the Ryukyu Islands and the Government of the Ryukyu Islands.

(Originating and receiving documents)

3. For the Government of the Ryukyu Islands, documents shall originate with and be received by the Director of the ~~Administrative Services~~ General Affairs Department; for the Government of Japan, documents shall originate with and be received by the Director of the Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office. Documents ~~in connection with the Memorandum~~ shall be sent through the ~~official channels of the United States and Japanese Governments~~ Chairman of the Technical Committee and the Representative of the Government of Japan to the Technical Committee respectively.

(Bank for payment of aid funds)

4. Non-resident free-yen accounts of the Government of the Ryukyu Islands, stipulated in paragraph 2 of the Memorandum, will be opened in Japanese foreign exchange banks in Tokyo, in the name of the Director of ~~Administrative Services~~ General Affairs Department, Government of the Ryukyu Islands.

(Accidents to aid projects)

5. In the event that a project has been unduly delayed or serious interference with the execution of the project has arisen before the submission of the report of the completion of the project, due to a natural disaster and other acts of God, the Government of the Ryukyu Islands will, without delay, inform the ~~Office of the High Commissioner~~ United States Civil Administration of the date, the cause and the circumstances of the accident which shall then inform the Prime Minister's Office.

Incl 4

When the Prime Minister's Office has received the above-mentioned information, necessary steps will be decided upon through consultation among the Prime Minister's Office, the ~~Office of the High Commissioner~~ United States Civil Administration and the Government of the Ryukyu Islands.

(A program for implementation of a project)

6. In accordance with the provisions of paragraph 3 a. of the Memorandum, when the Government of the Ryukyu Islands seeks the prior concurrence of a program for implementation of the projects and when the Prime Minister's Office approves or disapproves of the program, the attached Form No. 1 will be used.

(Notification of contract execution and ~~request for roughly estimated payment~~ plan of request for partial payment (Bubun Barai))

7. In accordance with the provisions of paragraph 3 a. of the Memorandum, when the Government of the Ryukyu Islands has executed contracts ~~and purchase orders~~, the notification will conform to the attached Form No. 2.

This notification will be accompanied by copies of basic contracts and the purchase orders without any of the other attachments.

In case the Government of the Ryukyu Islands requires ~~roughly estimated~~ partial payments for a specific project in accordance with the second sentence of paragraph 3 b. of the Memorandum, necessary details will be specified on the column of "~~Request for advance payment~~" "Requirement for partial payment" of the attached Form No. 2.

(Change of a project)

8. In case the Government of the Ryukyu Islands has requested and received approval from the ~~High Commissioner~~ United States Civil Administration for a change in projects and seeks advance concurrence of the Prime Minister's Office in accordance with the provisions of paragraph 4 b. of the Memorandum, the request therefor will conform to the attached Form No. 1 (the revision will be annotated "Change" in red on the upper right hand corner of the form).

(Report on progress)

9. In accordance with the provisions of paragraph 5 of the Memorandum, a quarterly report on progress of aid projects will conform to the attached Form No. 3.

~~The actual results of projects which have been completed during a quarter will be described for each project by reference to the attached Form No. 4.~~

In case that the completion of a project is delayed beyond the contract period, the expected time of the completion of the project as revised and the summary of facts causing the delay will be described in the column of "~~Progress~~" "Remarks" of the attached Form No. 3.

(Report on completion)

10. A report on completion of an aid project which is transmitted to the Prime Minister's Office in accordance with the provisions of paragraph 8 of the Memorandum will conform to the attached Form No. 4. In accordance with the provisions of paragraph 3 b. of the Memorandum, ~~a request~~ requests for full ~~payment~~ or ~~for~~ partial payments ~~prior to completion for a specified project~~ will be made on the attached Form No. 4/, with partial payments restricted to completed subprojects or groups thereof or to partially-completed subprojects where 90 percent of the completed portion is in excess of 10 million yen.

JOINT STATEMENT

EIGHTH MEETING OF THE U.S.-JAPAN-RYUKYUS TECHNICAL COMMITTEE

Naha, Okinawa

Jan. 28 - 29, 1966

Mr. Seiko Kohagura, representative of the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands (GRI) announced at the Eighth Meeting of the U.S.-Japan-Ryukyus Technical Committee that the GRI is achieving satisfactory progress in carrying out Japanese aid projects.

The meeting was convened at 9 a.m., Jan. 28 in the Executive Building, Naha by the chairman, Col. Jack P. Napier, representative of the High Commissioner, and was concluded at 10:35 a.m., Jan. 29.

Both the chairman and the representative of the Government of Japan, Mr. Yoshio Yamamoto, congratulated the GRI on its successful efforts to accelerate fund obligation, project execution and completion of aid projects in the Japanese fiscal years (JFY) 1964 and 1965 periods.

The GRI reported, as of Dec. 31, 1965, a 99.5% rate of obligation for the JFY 1964 aid projects costing $4,025,788.03, and a 69% rate of obligation for the JFY 1965 aid projects costing $6,538,216.19.

Also as of Dec. 31, 1965, 95% of the JFY 1964 aid projects were fully completed, and Mr. Kohagura expressed confidence that all JFY 1964 projects will be completed by March 31, 1966, the expiration date of the JFY 1964 aid program under Japanese finance laws. 33% of the JFY 1965 aid projects were fully completed and Mr. Kohagura said the GRI is determined to complete the rest of the projects as rapidly as possible.

Incl 5

Three other items were discussed at the meeting, including proposed details of implementation of a memorandum concerning Japanese aid funds for the Ryukyu Islands for JFY 1965, a supplementary listing of a Japanese Government technical assistance program for JFY 1965, and acceleration of execution and simplification of clerical procedures.

On the above items, Mr. Yamamoto explained proposed details of implementation of the memorandum, which the committee approved. A supplementary listing for 51 Japanese Government technical assistance programs proposed by the GRI was accepted by the GOJ representative for prompt study and reply. Mr. Yamamoto submitted a proposal for the establishment of a working group to study and recommend procedures for acceleration of execution and simplification of administrative and technical matters involved in implementing the GOJ aid program. The committee approved this proposal.

Accompanying the three regular members were the following advisers and observers:

For the Representative of the High Commissioner:

Mr. E. O. Freimuth, director, Liaison Dept., U.S. Civil Administration of the Ryukyu Islands (USCAR).

Lt. Col. Carl J. Bordiga, chief, Program, Budget and Fiscal Div., Comptroller Dept., USCAR.

Mr. Clarence Tatekawa, chief, Program and Budget Br., Comptroller Dept., USCAR.

For the Representative of the Government of Japan:

Mr. Tsuyoshi Susuki, deputy chief, Japanese Government Nampo Liaison Office (JGLO), Naha.

Mr. Tokio Furuya, chief, Assistance Sec., Special Areas Liaison Bureau (SALB), Prime Minister's Office (PMO), Tokyo.

Mr. Tokio Hirota, chief, Second Sec., JGLO, Naha.

Mr. Takeshi Kuma, economic assistance officer, JGLO, Naha.

Mr. Teruo Kamihigashi, liaison officer, JGLO, Naha.

For the Representative of the Chief Executive:

Mr. Yuken Tome, director, General Affairs Dept., GRI.

Mr. Kenji Kudeken, director, Planning Dept., GRI.

Mr. Haruo Sato, chief, Budget Div., Planning Dept., GRI.

Mr. Shinshu Higa, chief, Budget Sec., Budget Div., Planning Dept., GRI.

Mr. Takehisa Arakaki, chief, Accounting Sec., Budget Div., Planning Dept., GRI.

Interpreter: Mr. Ralph K. Harada, Liaison Dept., USCAR.

Press Relations: Mr. Alexander Liosnoff, chief, News Div., Public Affairs Dept., USCAR.

(END)